2-4 総合観測線による地殻変動連続観測(1984年7月まで)

Continuous Observation of Crustal Movement (until July, 1984)

東北大学 理学部

Faculty of Science, Tohoku University

第4次地震予知計画で完成した東北大学の地殻活動総合観測線は二つの特定観測地域及び内陸の活断層地域を通り、東北日本弧を南東から北西方向に横断している(第1図)。今回は総合観測線上の観測点で日本海中部地震の震央に近い男鹿(OGA)と五城目(GJM)観測点における傾斜変化及び男鹿(OGA),五城目(GJM),仁別(NIB),西木(NSK),田沢湖(TAZ),沢内(SWU),和賀(WGA),黒沢尻(KRS),大東(DIT),気仙沼(KSN)の伸縮計による観測結果を報告する。第2図はOGAにおける水管傾斜計による観測結果である。以前の結果は既に報告¹⁾されている。第3図はGJMにおける傾斜ベクトルである。第4図から第13図は伸縮計による観測結果を雨量と共に示している。観測点により変動の様子が異なっている。

1984年1月頃から3月頃まで大部分の観測点で変動が小さいのが注目される。

参 考 文 献

1) 東北大学理学部:日本海中部地震前後の地殻変動,連絡会報,31 (1984),69-83.



Crustal Movement Observatory







第2図 男鹿 (OGA) における水管傾斜計による傾斜ベクトル (a) 1974年1月-1984年7月 (b) 1983年1月-1984年7月





第3図 五城目 (GJM) における水管傾斜計による傾斜ベクトル

Fig. 3 Vector diagram of maximum descending tilt direction at the GJM observatory.



OGA



Fig. 6 Strain observed by extensometers at the GJM observatory.









-30-







-31-







-32-



-33-